

◎ 年間スケジュール

	2月	3月	4月	5月	6月~7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月~2月
学校行事											
トライ対策スケジュール	準備期		基礎力			応用力養成期			発展力養成期		実践力養成期
	英:システム英単語 ver.2 数:スタンダード数学 国:565パターン集・問題集 社:速読読解 世界史(日本史・倫理) 理:セミナー		英:速読英単語 必修編 数:スタンダード数学 国:古文上達テーマ56 社:世界史年代ワンフレーズnev 理:重要問題集			赤本			センター対策問題集		赤本
	三者面談						三者面談 志望校相談①		三者面談 志望校相談		
ポイント	英:豊かな語彙力をつける!文章の把握力を養う!「直訳」を大切にす! 数:基本事項のマスター!日々の練習で実践的解法をチェック!頻出項目のチェック!計算力の強化!論証問題への対応!図形的判断力を養う! 日本史:教科書に注意(山川出版と実況出版の両教科書の学習を!理解を深める学習を(暗記だけでは十分ではない)!教養を深める!資料になれる! 国:現代文は記述量が多いので演習量を多くする!古文は現代文同様過去問研究を中心に学習! 世界史:教科書を副教材の利用!論述対策を!過去問、他大学の問題演習を!										

◎Data Mining 【2次試験】

英語	<問題構成>読解問題2題、英作文問題1題 <出題内容>【読解問題】2題とも論説文。抽象度の高い英文と、具体的内容で比較的わかりやすい英文の両方が出題されることが多い。英文内容は、科学や哲学に関するものが多く出題されている。【英作文】出題されるに本文は1問につき2~5文からなり、やや長めで英語に直訳しづらい。全部で10行程度の和文の全訳。和文和訳を行なう必要がある。語彙力、文法、語法の正確さはもとより、日本語を分析する力が問われる。
数学	<問題構成>120分で5題、全問必須で選択問題なし。全問記述式。 <出題内容>数学I・II、数学A・Bからなる。頻出項目(微・積分法、確立、指数・対数、整数問題、行列、ベクトル数列・極限、平面・空間図形など)証明問題も1.2題含まれている。柔軟性が求められる問題が多い。高度な計算力を要する問題も多く、特に三角関数の諸公式を自在に活用する力や積分計算の技術力は合格のために不可欠。
日本史	<問題構成>例年大問4題からなる。試験時間90分。 <出題内容>〔1〕が資料による記述法、〔2〕、〔3〕が記述法、〔4〕が論述法となっている。網羅的な出題だが、原始時代と現代からの出題がやや少ない。【資料問題】空所補充は基礎的な用語であることが多い。論述問題、内容的には制度や事件などの経過・展開を説明するオーソドックスなものも多く、一概に難しいとは言えない。論述に慣れているかどうか点差を開くポイントと考えられる。
国語	<問題構成>現代文2題、古文1題〔1〕の現代文は文理共通。試験時間120分。全問が記述・論述形式。字数制限が課せられることは極めて稀。 <出題内容>現代文:評論や随筆の出題が多いが小説も出題。出典は明治から現代にかけての作家、評論家、各界研究者の文章で評論や随筆、小説など幅広い。文章量はB5判2、3ページ程度。内容は、哲学、社会、文学論など多岐。京大受験生の水準にあった適度に抽象性のある文章となっている。古文:平易な古文で口語訳中心の出題。一般的国公立2次試験型の国語問題と比較すると難度が高い。
世界史	<問題構成>大問数は例年4題、試験時間90分。量的にはかなり多い。〔1〕〔3〕が論述法、〔2〕〔4〕が記述法中心の設問という形が続いている。短文論述の部分で点差がつきやすくなっている。 <出題内容>地域別、東洋史の出題の割合は1:1でその半分以上が論述問題である。ヨーロッパと中国に偏った出題傾向にあるがその他の地域もおろそかにできない。教科書を中心に勉強していれば高得点が取れる問題だが、300字の論述が2題と短文論述の多さで90分で全てを解答するのはかなり難しい。

◎ こういう生徒にお勧め!

- ・京都大学に合格したい現役生から浪人生まで。
- ・弱点克服をしたい。
- ・効率よく勉強がしたい。(センターのみの科目)
- ・記述形式の解答がうまくできない。

◎ 対象エリア

京都府  
対象学年 高校1年生~高校3年生(中高一貫校含む)

◎ 対策の特徴

- 【コースの特徴】
- (1) 合格へ導くスケジュール管理
  - (2) 現役京大生から話が聞ける
  - (3) 弱点を徹底的に得点できる分野に変える
- 【対応教師】  
プロ: トライが誇る最高の教師陣  
セレクトC: 現役京大生